Global Summit of Women 2017 東京　参加者レポート

2017.6.11　NPO 法人 GEWEL

はじめに

このレポートは、Global Summit of Women in Tokyo という素晴らしい機会を与えてくださった GEWEL 設立者の佐渡アンさんに心から感謝し、自ら輝くみなさんと成長を分かち合うために公開します。

今から 15 年前、佐渡アンさんと堀井紀壬子さんは、グローバルに活躍できる女性を育成する組織を立ち上げたいという夢から、NPO 法人 GEWEL が設立されました。コンセプトは Global Enhancement of Women's Executive Leadership、これからの女性たちが宝石のように輝くためにお手伝いをしたいという気持ちをこめ、ジュエルと呼ぶことになりました。佐渡アンさんは 1990 年代に Global Summit of Women に出席して刺激を受け、日本の女性が企業や組織で責任あるポジションに就き、世界的に活躍できるよう応援する組織を作りたい、と考えていました。佐渡アンさんをはじめ、GEWEL が日本国内の Diversity & Inclusion を粘り強くけん引しつつ、世界的な D&I の状況を国内に持ち帰り広めてきたことが功を奏し、ようやく「サミットを東京で」の夢が実現しました。過去最大となる約 1600 名が参加する盛大なサミットには、日本経済の主軸である政府、企業、団体からも素晴らしいゲストが登壇され、メディアでも大きく報道されました。GEWEL メンバーも 40 名以上が参加し、お互いの違いを活かし成長しあえる場となりました。大学生メンバーを代表してサミットに参加した安本百合香さんの努力によって、1 か月という短期間でレポートを公開することができました。ご協力いただいたみなさまに心から感謝申し上げます。

（文責：副代表理事　小嶋美代子）

GSW 参加者による記念撮影

5月11日(木)

“日本とビジネスするには”

Doing Business with Japan

Moderator: Richard Evans, Board Director, Constellium, Former CEO, Rio Tinto Alcan(USA)

Speakers: Hon. Hiroshige Seko, Minister of Economy, Trade & Industry (Japan)

Sadayuki Sakakibara, CEO, Keidanren (Japan Business Federation)

COPROX 代表・GEWEL 事務局

早坂顕子

「女性と経済」がコンセプトの GSW。東京大会最初のセッションは、海外からの参加者に向けた日本「国」としてのプレゼンテーションでした。世耕経済産業大臣は 1.ダイバーシティ 2.0 行動ガイドラインに基づくアクション、2.働き方改革と女性をはじめ多様な人材が活きる社会への取り組み、そして 3.Connected industry によるモノづくりからデジタルエコノミーへの転換を紹介しました。

経団連の榊原会長は、1.ROE や経済規模拡大へ期待ができることを根拠とし、会員企業に 1. 女性をはじめとする多様な人材の能力開発を後押し、2. 経営トップのコミットメントとリーダーシップに加え、社員のボトムアップが必要であると語りました。サミットプレジデントのアイリーン・ナティビダッド氏から、日本の経済に参入するのにニーズは何か？との問いに、「Society5.0」（政府による第 5 期科学技術基本計画）を挙げ、従来の得意分野である製造業と IoT,、A I 融合による新市場の開拓が一つであると回答。さらには経団連による中小企業やアントレプレナーへのサポートについての問いもあり、視座を替えた質問に最初から圧倒されました。

“都知事フォーラム”

Governor’s Forum

Moderator: Irene Natividad, Summit President

Speakers: Yuriko Koike, Governor of Tokyo

COPROX 代表・GEWEL 事務局

早坂顕子

「時の人」小池百合子東京都知事は海外でも有名な様子、大ホールに入るとスタンディングオベーションで迎えられました。アイリーン氏とのセッションは英語で行われ、ニュースキャスター、大臣歴任、現在までのキャリアと、都知事の仕事を語りました。

アラビア語を専攻しカイロに行ったのは、当時国連で採用されたばかりの言語でニーズが

あると判断したこと、キャスターは多く学ぶことはできたが観察者であり、プレーヤーになりたくなったこと、さらに大臣は権限がある一方、省庁を超える活動に制限があり、首相か知事になるしかないと思ったのだと言うと、会場から笑いと拍手が沸きました。

「現在の職務は、腐敗していなようなのでふさわしいのであり、女性だからとは思わない」と語ったうえで、世界のビッグシティである東京の運営ビジョンについて、人口減少や少子化、高齢化の先進国として、パラリンピックを成功させることがキーになり、女性が働きづらい社会は「もったいない」と表現し、保育所対策にも言及しました。

あなたを成功に導くキーワードは？との会場からの質問には、「spirit of challenge and taking risk」, 恐れを克服し続ける方法は？には「クリアビジョンがあれば恐れなし、チャレンジするしか得られないし、もっと分析し戦略を立てるようになる」と回答。端的な言葉は、20 代からエジプトに単身で渡り、先見性と意思で進んできた人だからこその重みが爽やかに詰まって記憶に残り、時間はあっという間に過ぎました。

“開会式”
Opening Ceremony

Henryka Bochniarz, President, Lewiatan (Poland)
Noriko Nakamura, Chair, Japan Host Committee, 2017 Summit (Japan)
Irene Natividad, President, Global Summit of Women (USA)
H.E. Leni Robredo, Vice President, Philippines
H.E. Dang Thi Ngoc Thinh, Vice President, Vietnam
H.E. Shinzo Abe, Prime Minister (Japan)
Hon. Fumio Kishida, Minister of Foreign Affairs

古川香織

最初に、昨年のポーランド大会のヘンリカ・ボフニャシュ Lewiatan 社長から挨拶があり、その後、中村紀子 2017 年東京大会 GSW 実行委員長から挨拶があった。
中村実行委員長によると、今回は過去最高の 1,300 人の参加者が 62 か国から集まったということ。また、今回、各国へのおもてなしとして考えられたのが、赤坂迎賓館で行われるウェルカムレセプション。天皇や首相が国賓をお迎えするときに使われるものだが、今回は特別に日本政府が GSW のために開放してくれたということであった。

中村実行委員長のミッションとして、3 つのポイントがあげられた。
1 つ目は、安倍首相が言う 2020 年までに女性リーダーを 30%にすることについてサミットが後押しすること。
2 つ目は経済外交。新しいビジネスがこのサミットで創造されることを期待している。
3 つ目はユース。210 人の学生が 51 大学から来ており、20 人の学生はスカラーシップで招待されている。これらの学生については、サミット後に JAFE のサポートを受ける。

次に、アイリーン・ナティビダッド GSW 代表から参加人数の多い順に発表された。一番多い代表団は中国の 96 人。二番目は 85 人のカザフスタン。ベトナム 81 人。韓国 66 人。次はアメリカ。フィリピン 46 人。スペイン 46 人。モンゴル 45 人。オーストラリア 28 人。そのほかたくさんいるが、本当に世界から集まっているということで、コンゴからの 19 人、アゼルバイジャンに注目していた。

そのほかのアイリーンの発言内容は次のとおり。
「今回のサミットの経済的な焦点はアジア太平洋。アジア太平洋に暮らすこの大きな集団は、次の世紀にインパクトを与える。3 つの大きな一般市民の会社はニューヨークではなく北京にあるように、世界一大きな映画産業はハリウッドではなく、バリウッドであるように、西から東へ移っており、世界二番目、三番目の経済大国の中国や日本はアジア太平洋の国。大きな動きが東の世界で起き、西の世界へ広がっている。
サミットでは、太平洋市場とどう対するかをシェアする。また、文化と同様に地域ビジネスについても考える。
女性全体のためのビジネスケースは、全ての経済を発展させる。なぜなら、ほかの皆を助けるから。安倍首相も何度も何度も繰り返し述べているように、他のリーダーも今こそ同じように立ち上がるべき。経済のためにもビジネスのためにも良い。これが良いニュース。悪いニュースは、今は世界的に不安定な時期であるということ。世界のつながりは散漫で、不安定。テロや自然災害も増加している。これに対する答えは、ボーダーを超えること。「つながること、一緒に働くこと、一緒に声を上げること。」
ここに世界から集まった人がつながる。これがメッセージ。「私たち女性は強く、平和主義であり、そして長生きである。」

次に、安倍晋三内閣総理大臣へのグローバル・ウィメンズ・リーダーシップ・アワード 2017 の授賞式が行われ、その後、安倍総理大臣から挨拶があった。

「アベノミクスはウーマノミクス。安倍政権が掲げる「すべての女性が輝く社会」とは、あらゆる人がすべての制約を飛び越えて、自分らしく活躍できる社会。
安倍政権の 4 年で、女性の就業者数は 150 万人増え、第一子が生まれた後も働き続ける女性の割合が初めて 5 割を超えた。上場企業の女性役員も倍増している。
私は保守的な政党の中にあっても、その中でも保守派に分類される。その私が女性活躍の推進を始めたということは、日本の女性活躍の流れは後戻りすることはないという証明。安心していただきたい。
まだまだ多くの課題はある。子供を産むと仕事を続けにくいというのは、女性の活躍を阻む大きな問題。働く女性が増えるにつれ、特に都市部で待機児童の問題が発生している。待機児童 0 を目指して、2013 年には保育の受け皿の整備を加速するため、2017 年度末まで 40 万人分としていたものを 50 万人分に上積みした。2014 年には育児休業の給付率を 50%から 67%に引き上げた。子育て世代の就業率は加速的に増え、昨年は約 72%に達した。
しかし、いくら女性が頑張っても男性の意識が変わらなければ、女性の活躍も限界がある。家事や育児は夫婦でともに担う。子どもが生まれたときから夫が育児に取り組めるよう、男性の育休に加え、妻の出産直後の休暇の取得を推奨している。特に国家公務員は全員 5 日以上取得するよう強力に推進していく。
仕事と家庭を両立できる環境づくりとして、働き改革はそのための最大のチャレンジ。まずは長時間労働の是正。長時間労働をすることを良しとする日本の企業文化を根本から変えていく。
日本は人口が減少していく中で、女性の力を必要としている。同時に、女性が社会に参画していくことで多様性が生まれ、より力強い社会となっていくと思う。」

続いて、ダン・ティ・ゴック・ティン　ベトナム国家副主席。
「ウーマノミクスを支援させていただきたい。ウーマノミクスは成果をあげている。2017 年から GDP が 6%上がっており、日本の GDP をおし上げていく。
均等な雇用の機会をもたらすだけでなく、ビジネスにおいて新しい価値をもたらす。
マッキンゼーが出したリサーチでは、女性の経済参画が男性と同じになると、2025 年にはグローバル GDP が 26%上昇すると言われている。
ウーマノミクスをすすめていくためには、1 つ目に、完全な、法的な取り組みが必要。2 つ目にモニタリング、評価が必要。3 つ目に、ジェンダー平等に対する啓蒙が必要。メリットを理解しなければならない。
最後に、女性がお互いに学び合う場を作る必要がある。
女性も潮流にのり、チャンスをつかんでいただきたい。女性の CEO が 50%を超える日を夢見よう。」

最後に、レニー・ロブレド　フィリピン共和国副大統領から。
「女性が職場で平等に扱われると、2025 年までに 12 兆ドルの経済的効果がもたらされるとされている。それは、男性も女性の平等をすすめていることに表れている。
しかし、ジェンダー間の格差は広がっており、2016 年の経済フォーラムが出したものでは、

男性と女性が平等になるには 170 年かかると言われた。
フィリピンでは女性は幸せ。ジェンダー格差指数は 7 位。アジアではトップ。リーダーの37%が女性で、その多くが今回出席している。
女性リーダーはほかの女性に力を与える。また、女性は収入の 90%を家族に還元していると言われている。女性に投資することは未来に投資をすること。
このサミットの成果に期待したい。」

---

5 月 12 日(金)

"女性起業家フォーラム:「旧来の」ニーズから新たな事業を創出"
Women Entrepreneurs Forum: New Business from 'Old' Needs

Moderator: Denise Evans, Vice President, Women and Diversity Marketing, IBM (USA)
Speakers: Melissa Yang, Co-Founder & CEO, Tujia (China)
Charlotte Whitmore, Founder, AnalyticsPros (USA)
Maiko Kuroda, President & Co-CEO, Toyoko Inn (Japan)

北山千夏

メリッサ・ヤンは中国で民泊の会社を創業。現在 40 万以上の民泊の場所を持つ。特徴はサービスのクオリティとスピード対応。
黒田麻衣子氏はビジネスホテル東急インを経営。女性が働き甲斐を持てる、社員に尊敬される会社を目指す。東急インは支配人が女性であることが特徴。黒田氏は創業者でなく、創業は御父様。支配人を女性として抜擢にしたのも創業者。1 件目から女性を登用。きめの細やかさは女性ならでは。また、今までは採用に問題はなかったが、これからは難しいと語る。

シャーロット・ウィットモアは看護士の経歴を持つ、テクノロジー会社の創業者。「テクノロジーは学ぶ機会が沢山ある。わからない事はフォーラムで質問して答えをもらう。」
～テクノロジーの活用に関して～
メリッサ「サプライサイドのトレンドとしてもっと質の高い旅行ができるかを考えている。インターネットテクノロジーに関して前職では知らなかった。もともとは舞台裏が好きなタイプ。今はどうすれば営業できるかを考える。お客様は様々で、どうすれば使えるのか、使いやすくなるのかを、常に考えている。」
黒田氏「最先端のテクノロジーを作っている人達に頼ってできている。インターネット予約・サービス提供でテクノロジーを活用している。」
シャーロット「企業文化としてデータはデータ。人間が変化をもたらす。」

デニスから黒田氏への質問「東横インの成長に関して、顧客ベースでお客様から学んだことは？」
黒田氏「ビジネスで使ってもらえておりウィークデイが満室。旦那さんが使って良かったから家族旅行に使う流れがある。サービスに関してはビジネスマンも家族も基本は同じ。清潔な客室を提供する事。ほっとできる空間をリーズナブルに提供します。ビジネス使用も家族も関係ない。」

～ビジネスに関して、次のステップ、成長は？今の道筋とは違うのか～
黒田氏「日本 260 店はすべて同じ作りにしている。駅前にある事・システムはすべて一緒。海外の方でもどこに行っても同じで安心されます。次は欧米に出店を予定。日本文化に根付いているものが海外でどこまで通用するか研究したい。民泊などの形態が出てきたが、うまくやっていきたい。」
シャーロット「キープレイヤーの存在が大事。これからはアナリティクスを実行に移す。」
メリッサ「もちろん成長。旅行は成長する。特に日本は中国が狙っている。口コミが重要と考える。マーケティングはしていない。」

～3 人から、女性へのメッセージ～
メリッサ「自分も徐々に成長してきた。アドバイスとしては自分自身の次の成長を。人間の頭打ちを経験する事があるけど、自分自身が前向きに。とにかく前に進む。次に何をすべきか、どうするかを考えておかなければならない。」
シャーロット「二つある。一つは素晴らしい人々との出会い。メンターは自分自身に光が見えない時に光を見せてくれた。正しいビジネスのやり方を模索している時は、経験をしている人を付ける。二つ目は、両立に関して女性は大変。完璧なお母さんとキャリアを持つ事の両立。旦那とはその事について話した。今 4 名の子供がいますが、仕事の時に世界中を一緒に旅行した。このサミットにも来ています。家も仕事も大好き。」
黒田氏「自分は後継者であり起業家ではない。しかし自分からやりたいと言った。それまでは専業主婦をしていた。父親が責任を取って辞めることになったために自分がやろうと思った。「よくやると言えたね・・・」と言われるが、何もかんがえていないからできた事。ネ

ガティブな事や心配な事を考えたら何もできない。二人の子供がいるが心配だったらできない。やってしまえば何とかなる。シャーロットが言った通りで、誰かが手を差し伸べてくれる。日本では生みの苦しみというが、大変な事は何とかなるし、子供を育てる大変さは忘れてしまう。大きくなったら生んでよかったと思う。やりたいことは両方やってみて！」

セッションを聴いて
印象的だったのは、黒田さんが起業家ではないが起業家精神を持ち合わせている事。「自分がやらなければ！」という想いが、起業家は特に強く原動力になっているのではないかと思う。そして強い意志でやり続け、常に考え続けてより良いものを模索し続ける。そのためにも、シャーロットが言ったメンターを付ける事、特に経験している人を付けるというのも納得。また経営者であると同時に、シャーロットと黒田さんは母親でもある。しかもシャーロットには4人も子供が！その子供と世界中を一緒に回り、このサミットにも連れてきているような働き方は、これからの働くお母さんには当たり前になる時代が来るのではないかと思う。子供が犠牲になるのではなく、子供も一緒に成長する機会にしてしまう。工夫次第でどの様な事でもそれを活かす事ができると改めて思ったセッションだった。

分科会：リーダーシップ育成トラック

「リーダーのスタイル」

“社内外における「自分ブランド」の構築”
Building Your Personal Brand Internally & Externally

Moderator: Cindy Pace, Assistant Vice President, Global Women’s Initiative Leader, MetLife (USA)
Speakers: Karen Greenbaum, President & CEO, Association of Executive Search Consultants (USA)
Michiko Achilles, Vice President & Head of Human Resources, SAP Japan (Japan)
Tomoko Mukoyama, Chief Marketing Officer, L’Oreal Japan
Mary Ellen Kassotakis, Executive Director, Oracle Women’s Leadership, Oracle (USA)

メトロキャッシュアンドキャリージャパン（株）小崎なるみ

GSWの午後からは分科会があります。同じ時間に聴きたい内容が重なる事も多くて、毎回、とっても迷うのです。
そんな中、独自のスタイルを持っている人は凛として素敵だから、私も自身のリーダーシップスタイルを作り上げたい！というシンプルな(?)欲求から、2日目午後に 「Building your brand internally and externally 」に参加しました。

かなり多くの人が、このセッションを取っていた様に感じました。皆、セルフブランディングは課題と感じているのかもしれません。
モデレーターは、前回のポーランド大会のポストツアーのディナーで一緒に盛り上がったシンディ ペイスさん(メットライフ 社)で、力強い声の持ち主でグイグイとディスカッションをリードしていたのが印象的です。

この分科会で心にずしりと刺さったというか、安堵したのは「他人の評価を気にしない人はいない」と ARSC の CEO カレン グリーンバムさんが発言した時でしょうか。
キャリアを積み上げた人でも、同じ様に傷つき悩むのだと嬉しく感じた瞬間でした。

そのカレンさんから自己分析の手法がスライドで紹介されるとシャッター音がそこら中から聞こえました。みんな同じ様に悩んでいると更に感じる事が出来ました。

肝心の手法は、現状分析を自身で行った上で、他人からの評価を聴きだす。そして、それらの評価の違いを分析し、中長期でそのギャップを埋めていく事が大切だと学びました。
スタイルは一貫性がある事、自分のキャラクターを活かす事、理想とのギャップはともかく練習あるのみです！と言って皆に笑顔を見せ、大きな拍手で発表を閉じました。

私が感じる GSW の素晴らしさは、ここで書いた様に世界で活躍する政治家や大企業のリーダー達に共感出来る事です。
同じ様に悩み、努力して進んできたのかと知る事で、私の努力をそっと後押ししてくれています。毎回、次も参加しようと思うのは、自分を応援してもらいたいのかもしれません。

分科会：リーダーシップ育成トラック

“社内外における「自分ブランド」の構築”
Building Your Personal Brand Internally & Externally

JR 東日本メカトロニクス　蒲真理子

初めての GSW でした。日本のみならず世界には多くの女性リーダーがいる事を実感してきました。また、企業で働くリーダーとしての自分を見つめ直し目標を再セットする有意義な機会になりました！私の受講したセッションの感想をお届けします！

「自分の能力を発揮し、企業や組織で貢献するには」の真髄を聞いた気がします。積極的に仕事に臨むことや主張をするのは良いことと言いますが、自分で自分の出来る事や仕事を判断することは自分の才能を見えなくしている可能性があるという事に気づかされました。スピーカの彼女たちが共通的に言っていた「周りを見る事」「自分に一貫性と信憑性を持つこと」そして「文化の中で自分を作る事」は、起こりがちな課題ばかりに目を向けるのではな

く、自分の出来る事・貢献できそうなポイントに常にアンテナを張り真摯に対応する事は、その後成功となって還ってくる、と教えられました。

　また、与えられた仕事を確実に誠実に遂行することは、実はちゃんとしたチャレンジで、自分の適性や才能開花の為の最も近い道なのだと思いました。

目も心も奪われたGala Dinner

“ガラディナーGWL授賞式”

Global Women’s Leadership Awards Gala Dinner

Opening Remarks:　Sungjoo Kim, Chair and Chief Visionary Offiver, MCM Holdings AG (South Korea)

Global Women’s Leadership Awards

Presenter: Irene Natividad, Summit President

Global Women’s Leadership Awards

Recipient: H.E. Joyce Banda, Former President of Malawi

Global Women’s Leadership Awards

Presenter: Noriko Nakamura, Chair, Japan Host Committee

Global Women’s Leadership Awards

Recipient: Yuriko Koike

中西　真生子

GSW　3 日間の中で最も多様な、華やかなプログラムはといえば、このガラ・ディナーです。セッションテーマの一つにファッションが取り上げられ、コシノヒロコ氏が登壇したこともあってか、あらためて女性がまとうファッションというものの底知れぬパワーを全身で感じることとなりました。アフリカ諸国の女性の、原色に彩られた美しい模様の民族衣装、紫や緑、純白のチマチョゴリ、金や銀のフリルやスパンコールをあしらったカザフスタンの民族衣装、赤やピンク、黄色や黄緑など色彩豊かな日本の着物。そして笑顔を絶やさない人々。会場中から、女性に産まれたことを謳歌するのよ、という強いメッセージが発信されていたように感じます。

女性としてリーダーシップを発揮した成果を賞賛して授与される GWL 賞は、元マラウイ大統領のジョイス・バンダ氏が、日本からは東京都知事 小池百合子氏が受賞しました。日本における女性活躍は発展途上でありつつも、着実に成果を上げていくという期待感を世界に示すことができたのではないでしょうか。ジョイス氏においては、ドレスの鮮やかさなど視覚からくる存在感とあいまって、愛溢れるそのスピーチに魂を揺さぶられた参加者は少なくないでしょう。

ほかにも多く魂を揺さぶった人々がいますが、圧倒的な歌唱力とビジュアルを披露した、韓国の母娘ディーバもそうです。隣国のヒット曲はどれも心にすっと馴染み、どこかで聞いたことがあるような気さえするものの、やはり二人の歌唱力と存在感は唯一無二のものであり、同じアジア女性として誇らしく嬉しく思えてきました。この二人のディーバや MCM の宋氏の活躍を見るにつけ、私たちはまだまだ成し得てないことがたくさんあると認識しました。宴を散々楽しんだあと、これからやるべきこと・今できていることをしっかりと見つめて、次の一歩を早く確実に踏み出したいと強く感じたのでした。

今後の世界経済におけるアフリカ・アジアの存在感の大きさが強調されたサミットでもありましたが、このガラ・ディナーはまさにそれを象徴するひとときだったと思います。

---

5 月 13 日(土)

“ディベート：ワーク・ライフバランスの再定義”
Debate: Re-defining a Balanced’ Work/Life

Moderator: Sarah Gordon, Business Editor, Financial Times, (U.K.)
Opening Remarks: Hon. Fumiko Hayashi, Mayor of Yokohama (Japan)
Speakers: Sachin Shah, President and CEO, Metlife Japan
Ann Sherry, Executive Chair, Carnival Australia; Board Director, ING Group, Sydney Airport (Australia)
Paola Carranco, CEO, TalentLab (Mexico)

GEWEL 賛助会員　野口亜弥

ワークライフバランスについて、横浜市市長である、林文子氏による講演と、その他、ワークライフバランスを推進する国外のビジネスリーダーとのディスカッションが行われました。

〇50 年前の日本では
話は、林市長の若いころの働く環境についての振り返りから始まりました。1965 年、18 歳で社会に出た林市長は仕事の中に明確な男女の違いがあることを目の当たりにしました。女性は男性のアシストをすることしかできず、会社の中にも女性は５年で辞めるという認識が強くあり、低いコストで女性を雇うことができると考えられていたそうです。しかしながら、当時から 50 年以上たった今、女性の立場に変化が表れていると実感しています。

○市長になった経緯

林市長が市長になった経緯には、10 年間を指揮の管理職を務めていた際に、男性からの圧迫を感じてきた経験があります。当時は女性の経営者が１％もいませんでした。女性が経営することの価値が理解されず、男性のマネジメントが正解のように思われていました。しかし、男性と女性の持っている魅力は別々のものです。男性は突破力があり、ひとつのことを深く追求していくのが得意、女性は同時に多くのことを実行できるように思います。女性は、相手の立場に寄り添う。すべてを聞いてコーディネートしていくことに長けているように思うからです。そのため、多くの協力が得られます。今の時代一番足りないものは、相手の幸せを考える共感力のように思えます。「男性と女性の強みを生かしながら、２つをつなぎ合わせることができれば、きっといい社会になる。女性が社会で活躍できる環境を作ろう。」そう考えるようになったようです。そのためには、女性が仕事をしながら子育てをすることが非常に難しい状況を変えなければならないと感じました。

○横浜市「待機児童０」対策

市長になって子育て支援に取り組みました。2009 年から対策を立てて、３年半に待機児童が０になりました。最初に「待機児童０」を提案した際は、多くの人から大反対されました。仮に０にできたら、さらに、横浜市に人口が増えて、大変なことになる。しかし、「少なくする。」でなくて、「０にする。」ことに意味があると信じていました。政府が認可した保育所は大都市では、資金が不足し、基準は満たせません。そこで保育コンシェルジュを始めることにし、１人１人にヒアリングをして、市が認可する小規模保育、多様性のある保育を設置しました。幼稚園にも保育所的な機能を設けてもらうように交渉しました。毎年人数を減らして、待機児童が２人になっても、それでも「０にできなかった。」とメディアには書かれました。ただ単に０にすることが目的ではありません。そこに子供がいて、人がいるのだから、適した環境を紹介してあげなければなりません。現場はとても大変でしたが、それを見ずに評価をされてしまうのは悲しくもありました。

○男性の役割にも変化が必要

働く女性が外に出ていくことはいいことだと思います。待機児童を０にしたことにより、政府が各自治体に支援してくれるようになりました。今までは女性が家事も育児も全て背負ってきました。それは男性が死ぬほど働いているからです。男性に経済成長が押し付けられてきたからではないでしょうか。男性の働き方改革も必要です。どうしたら男性も育児参加できるのか。考えなければなりません。

その後のパネルディスカッションでは、ワークライフバランスを推進する CEO から、家族と時間を共有するための工夫が紹介されました。子供の習い事に自分自身がコミットできる環境にすることや、夕方 18 時以降には仕事の連絡は入れないようにすること。また、企業がワークライフバランスを推進したくても、企業風土がそれに障害を与えることがあります。CEO 自ら率先実行し、会社風土も変えていくことが重要であるという議論が展開されました。

分科会：リーダーシップ育成トラック

“男性リーダーとの協調構築”
Building Collaborations with Men

Moderator: Lynette Mayne, Executive Chair and Owner, Work Wear World (Australia)
Speakers: Kathy Matsui, Vice Chair, Chief Japan Strategist, Goldman Sachs (Japan)
Katsuyoshi Sugita, Head of Human Resources, Microsoft Japan
Aida Sabo
Anne Sherry Executive Chair, Carnival Australia; Board Director, ING Group, Sydney Airport (Australia)

JR 東日本メカトロニクス　蒲真理子

組織におけるダイバーシティ推進には特効薬などは無く、根気に地道に研修を続けていくことが重要でそれらは必ず効果が表れるという松井氏、杉田氏のコメントはとても印象的でした。

また、女性管理職数などの目標値の設定について、結果的に良かった・標値設定は有るべきであるという杉田氏のコメントには最初は驚きましたが、帰宅して数日よく考えてみると、性別にかかわらず、能力も可能性も同じだという前提に立てば、欠かせない設定値であると納得できました。

日本におけるダイバーシティ推進の遅れは様々なセッションで言及されていましたが、会社でダイバーシティ推進を担う事になった私にとってはこのセッションのお話は大きなヒントで励みにもなりました。

女性とダイバーシティー&インクルージョンの現場で

GEWEL 正会員　竹田　綾夏

初の日本開催となる GSW 東京大会では、世界各国の女性リーダーたちに加え、日本からは安倍首相、小池百合子都知事など、各界のリーダーたちが次々と登壇、女性のビジネスと未来について議論が交わされました。

小池都知事による GWL アワード受賞スピーチでは、「女性が自己実現できる社会を」という参加者に向けたメッセージが特に印象的でした。数十年前の日本では考えられなかった社会が今ここにある、という実感とともに、女性たちが真の自己実現を目指す社会はこれから築くのだ、という小池氏の決意が伝わりました。

今回私はポーランド大会に引き続き二度目の参加者として、東京大会の事務局運営の一部を担う機会を賜りました。世界各地のメンバーたちが協力し、非営利組織として大会を運営する様子は、多様な価値観が交差するまさにグローバルな現場でした。異なる価値観が衝突しながらも新しいアイディアや成果が生まれ、ダイナミックなうねりになることを自らの感覚で知ることができたのが何よりの学びです。

また、GSW 東京大会参加者に向けた準備イベント「GSW マラソン」のファシリテーターとして、日本の女性たちがグローバルな現場で活躍する意義を改めて考えさせられました。「世界に視野を広げることで、改めて日本を知るきっかけとなった」「世界中に同じ課題に取り組む仲間を作ることができた」といった大会参加者の意見から、GSW の意義やグローバル人材育成の重要性が伺えます。

今大会では、女性たちがリーダーシップを発揮する様子を目の当たりにする一方、日本女性が置かれる現状に向き合うこととなりました。世界規模のサミットとして多くのメディアに取り上げられた一方、日本は賃金格差、女性登用比率、根強い性役割意識などで先進国に大きく水をあけられている、という厳しい現実があります。いかにして課題を克服するのか、そのための具体的戦略・アクションは何なのか。女性のみではなく、幅広い層に訴えかけるダイバーシティー&インクルージョンの精神は今後ますます求められるのではないでしょうか。

ＧＳＷマラソンの様子（2017 年 1 月～6 月に全 5 回開催）

Global Summit of Women に参加して

白百合女子大学 3 年 安本百合香

今回 Global Summit of Women 2017 東京大会に参加することができ、沢山の素晴らしいグローバルリーダーから勇気をもらいました。私の人生でこれは一つの大切な機会になったと感じています。私自身大学生ではありますが、「一人の女性」としてこのような場にいられたのは、今後女性として働いていく上でどのように社会に貢献できるかという点で、とても参考になりました。多くの事を学び、一言一句逃したくなかったがために録音をしていた程ですが、今回は私がお伝えしたい事を書きます。

○自分が正しいと思っていれば必ず上手くいく

色々な CEO、起業家の方のお話を聴いていると「自分が正しいと思っていれば必ず上手くいく、信じてやりきる」という点を主張していたリーダーが多くいたように思います。拒否されることを恐れずに、信じる方へ突き進んで来られた方々だからこそ成功につながり、聴衆者へ伝える言葉に重みがあるように感じました。

そして周りを説得していく。女性の強みである具体的で明確な言葉を使い、数字・目標というのを口に出していくことで男性のサポートを得ることができるとありました。ゴールドマン・サックス証券株式会社副会長のキャシー・松井さんは、真面目に続けていたらいつか昇進するだろう、という気持ちではいけない。「自分はこれを達成した。だから昇進してもいいはずです」と自ら言わないと、状況は変わらない、とおっしゃっていました。男性に納得してもらい、どう自分の主張を推し進めていけるかというのが、これから私たち女性が求められる課題だと感じました。

○ワークバランスの再定義―“選択をする”

将来バリバリに働いていたい私にとって、「ワーク・ライフバランスの再定義」というセッションはとても楽しみにしていた時間でした。仕事をしたい、でも家庭も大切にしていきたいと思っているのですが、今の日本社会の状況を知る限り、家庭を大切にしたいなら女性の方が家にいなければならないのか。と感じていました。しかし、ディベートを聴いて考え方も少し変わります。メットライフジャパン CEO の Sachin Shah は自ら、週の 2 日間の夕食の時間には自宅にいるようにしているそうです。そうやって家族の時間をしっかりと作る。週末には子供のサッカーチームのコーチをする。これこそ男性の理想像だと思います。

「行動を変えていかないと問題が起こり、満足した生活が送れない。ただ会社にいても生産性なく時間を無駄にしてしまう。だったらこの 2 日間は休む、と思い切って行動に移さなければならない。人生は選択で溢れているから、生活をスムーズにしていくためにも、あなたがしたい選択をすること。」と Ann Sherry と Paola Carranco は話していました。日本人は働きすぎだとよく言われがちですが、彼らのように休むときは休むという ON/OFF がはっきりした考え方が、まだ日本には不足していると感じます。私もここは休もう、などと自分のためにもしっかり選択していきたいと改めて考えさせられました。

GSW3 日間を通して感じたのが、女性は強いという事です。参加者約 1,600 名の約 9 割は女性でした。女性が更に進めていくべきだ、女性が働きやすいような環境作りをしているという話が上がると「お～！」と何度も拍手が沸き起こりました。それだけ女性が共感し、これからも私たちに明るい未来が待っていることの表れだと思います。小池知事を含め、数々のグローバルリーダーの力強い言葉を聴き、女性は強い、男性に負けずに熱意を持って挑んでいくべきだと感じました。

私自身、すぐにではないのですが将来起業したいと考えています。今回 Global Summit of Women では大いに、自らの理想像を明確にできたと感じていますし、ぜひ今後も参加し、世界中の女性と共に社会を良くしていきたいと感じました。改めまして、Global Summit of Women 東京大会に参加できたことを心より感謝いたします。

＜あなたの成長をレポートに記録しませんか？＞

追加掲載をご希望のかたは、1000 字程度にまとめ、word 形式でメール送付願います。

レポートには GSW で聞いた内容だけでなく、ご自身の意見や学びのポイントを含めて作成ください。写真と挿入位置の指定がある場合は、あわせてメール本文に記載ください。

宛先：　GEWEL 事務局　contact@gewel.org

受付：　2017 年 6 月 30 日

以上